

事業所名 ※ グループホーム なでしこの家

日付 平成 21 年 12 月 28 日

評価機関名 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員: 健康運動指導士
実務経験10年以上

ホームヘルパー2級
実務経験3年以上

自主評価結果を見る (評価内容と一緒に添付しています。)

評価項目の内容を見る ※

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!) ※

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)
(記述式)

「なでしこの家」の入口にはたくさんの花や観葉植物が植えられたプランターが並んでおり、来訪する人々を和ませてくれる。同じ建物の中にデイサービスが提供されていて、入居者はデイサービスに参加して、他の利用者との交流もできる。職員全員で毎朝理念を唱和し、全ての職員が一体となって入居者を支援している。管理者とケアマネージャーが協力し、その入居者にとって本当にこのホームに来てよかったと思えるような場所になっているかどうかについて、職員との話し合いを繰り返し、ホーム内の業務を円滑に行うよう努めている。

こだわりとして、ホーム内で使用する石鹸はすべて手作りであり、入居者の肌や髪などに負担をかけないように工夫されている。入居者は洗髪などにも使用していて、しっとり潤いのある肌になると入居者にも好評である。また、食事の面ではなるべくその食材の形をつぶすことなく、普通食を食べてもらおうようにしており、食欲の亢進を考慮している。

特に改善の余地があると思われる点(記述式)

全体的に入居者の高齢化に伴い、手足が動きにくくなっているが、少しでも身体機能の衰えを防ぐ為に、機能回復訓練など運動をもっと日常的に取り入れることが必要ではないかと思われる。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	このホームが自分の居り場所となっているかどうかを利用者の状態を見ながら接し、援助するようにしており、職員と入居者が一緒に心を通わせながら生活ができるグループホームをめざしている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	介護する職員が穏やかな気持ちで入居者に接することができるが一番であるとし、家庭を持った、子育て経験のある人を、職員として歓迎している。 認知症の症状の軽い入居者は、希望に応じてデイサービスに参加することができる。		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持		○
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	部屋でくつろいでもらうことを前提に、ポータブルを各居室の一つ置いてある。また、職員は部屋に入るときは、入居者を訪問するつもりで声をかけるように心がけている。 職員は入居者のしぐさをよく観察し、早めにトイレ誘導している。また、トイレの失敗などは叱責しないようにしている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組		○
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	日々、職員同士で話し合い、様々な問題の解決を図っている。技術的なことはホーム内で研修を行ったり、その他、自治体や社会福祉協議会などの団体が主催する研修を受けに行くなどして、サービスの質の向上に努めている。		